

国立公衆衛生院〔望まない妊娠等の防止に関する研究〕  
平成7年度研究報告書

防衛医大 産婦人科

永田一郎、古谷健一、徳岡 晋、工藤一弥、村上充剛、大山さおり

〔目的〕近年、人工妊娠中絶（以下、中絶と略す）の件数は受胎調節・家族計画の普及によって減少してきているが、思春期年齢や40歳代の中絶件数は逆に増加している。また最近では体外受精・胚移植などの先端的な不妊症治療や種々の出生前診断が実施され、妊娠や中絶をめぐる社会的環境に変化が認められる。今回中絶手術を受けた患者および婦人科の一般受診患者に、中絶および今日の生殖医学（出生前診断を含む）に関するアンケート調査を行ない、今後の予防医学ならびに婦人衛生向上の資料とすることにした。

〔方法〕埼玉県産婦人科医会の協力を得て、最近の埼玉県における中絶手術の実体を把握するとともに、中絶件数の多い病院・診療所においてアンケートを実施した。またアンケートは以下の内容とした（表1）。

〔結果〕平成6年の埼玉県における中絶報告件数は13,748件であった。このうち未成年者は1,176件（8.6%）、40歳以上では1,837件（13.4%）であり、昭和50年の実施数20,806件における未成年者1.4%、40歳以上8.6%の割合よりも明らかに増加していることが示された。なお、平成5年の全国調査における結果は、未成年者および40歳以上の割合は7.7%と12.0%であった。この成績は本研究のテーマである〔望まない妊娠等の防止の対策〕がいかに重要であることを示しており、一方ではこの年代を含めた女性に関して、避妊法や出生前診断を含めた生殖医学の知識状況を把握する上においても、今回のアンケート調査の必要性がうかがえた。

(表1)

人工妊娠中絶および生殖医学に関するアンケート (防衛医大産婦人科) 1 ページ

あなたの年齢 ( 歳) : 未婚・既婚・離別・死別

これまでの妊娠 ( 回)

これまでの分娩 ( 回)

これまでの自然流産 ( 回)

これまでの人工中絶 ( 回)

その時の中絶理由: 1回目 ( )、2回目 ( )、3回目 ( )

職業: 主婦・自営業・公務員・会社員・パート・その他 ( )

これまでにかかった疾患についてお聞きします。

( [ ] には病名や手術名をお書き下さい)

(1)産婦人科の疾患・手術

(例: 卵巣のう腫・子宮筋腫・卵巣機能障害・膣炎・帝王切開・子宮外妊娠など)

①なし ②あり [ ]

(2)産婦人科以外の疾患の有無

循環器系疾患 (例: 高血圧・狭心症など)

①なし ②あり [ ]

呼吸器疾患 (例: 肺炎・結核など)

①なし ②あり [ ]

消化器疾患 (例: 虫垂炎・胃潰瘍・肝炎・膵炎など)

①なし ②あり [ ]

腎臓・尿路系疾患 (例: 慢性腎炎・ネフローゼ・膀胱炎など)

①なし ②あり [ ]

アレルギー性疾患 (例: 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・花粉症など)

①なし ②あり [ ]

内分泌疾患 (例: 糖尿病・バセドー病など)

①なし ②あり [ ]

精神神経系疾患 (脳硬塞・てんかん・パーキンソン病など)

①なし ②あり [ ]

膠原病 (慢性関節リウマチなど)

①なし ②あり [ ]

その他 [ ]

配偶者もしくはパートナーの年齢 ( 歳)

職業: 自営業・公務員・会社員・その他 ( )

以下の質問についてお答え下さい。

今回中絶をされた方 -----→問1よりお願いします

今回中絶以外で来院された方 -----→問7よりお願いします

問1． 今回の中絶の妊娠週数：（ 週）もしくは（ 月）

問2． 今回の中絶の理由として当てはまるものはどれですか（複数解答も可）。

(a)避妊の失敗

あなたの行なってきた避妊法は？

- ①オギノ式・②基礎体温表・③コンドーム・④ペッサリー
- ⑤子宮内避妊具（リングなど）・⑥膣外射精
- ⑦その他（ ）

(b)病気のため

[病気名： ]

(c)社会的理由

- ①経済的に養育困難
- ②仕事が続けられない
- ③相手との関係がうまくない
- ④意に反した妊娠（強制的など）
- ⑤その他（ ）

問3． 今後の中絶の予防についてあなたはどの様に考えていますか。

- ①私のみ避妊の指導を受けたい。
- ②配偶者・パートナーとともに避妊知識を得る機会が欲しい。
- ③不妊手術を受けたい。
- ④経口避妊薬を使用したい。
- ⑤子宮内避妊具を使用したい。
- ⑥その他（ ）

問4. 今後の避妊知識や指導はあなたにとってどれが適切と思われますか。

①産婦人科医師による指導。

[理由: ]

②助産婦や保健婦による指導。

[理由: ]

③家庭医学書。

[理由: ]

④特に必要としない。

[理由: ]

⑤その他 ( )

問5. 今回の中絶における手術の前後で、いわゆる”生命”に対する考えに何か変化がありましたか。

①全く無い。

[理由: ]

②ほとんどない。

[理由: ]

③ある程度はあった。

[具体的には: ]

④非常にあった

[具体的には: ]

問6. 今回の中絶手術について、もしすでに小学生・中学生のお子様がいいらっしゃる場合、あなたのお子様に対する影響について御意見をお書き下さい。

①もし中絶を知ることがあっても、影響はまったくない。

[理由: ]

②もし中絶を知ることがあれば、母親の健康のための選択であったとわかりやすく説明する。

[具体的には: ]

③絶対に知られないように秘密にする。

[具体的には: ]

④その他

( )

次は→問11へすすんで下さい。

問7. 中絶の回避についてあなたはどれが最も適切と考えていますか。

(3つまで複数解答)

- ① 自分のみ避妊の指導を受ける。
- ② 配偶者・パートナーとともに避妊知識を得る機会が必要。
- ③ 不妊手術を受ける。
- ④ 経口避妊薬を使用する。
- ⑤ 子宮内避妊具を使用する。
- ⑥ その他 ( )

選択した理由 [ ]

問8. もし今あなたが中絶手術を受けたとしたら、手術の前後で、いわゆる”生命”に対する考えに何か変化が起こるでしょうか。

- ① ほとんどないと思う。  
[理由は? : ]
- ② ある程度はあると思う。  
[具体的には : ]
- ③ 非常にあると思う。  
[具体的には : ]
- ④ その他 ( )

問9. (過去に中絶の経験のある方のみ)

過去における中絶手術の前後で、いわゆる”生命”に対する考えに何か変化がありましたか。

- ① ほとんどなかった。  
[理由は? : ]
- ② ある程度はあった。  
[具体的には : ]
- ③ 非常にあった。  
[具体的には : ]
- ④ その他 ( )

問10. もし仮に中絶手術を受けた時、すでに小学生・中学生のお子様がいらっしゃる場合、あなたのお子様に対する影響について御意見をお書き下さい。

①もし知ることがあっても、影響はまったくない。

【理由： \_\_\_\_\_】

②もし知ることがあれば、母親の健康のための選択であったと解りやすく説明する。

【具体的には： \_\_\_\_\_】

③絶対に知られないように秘密にする。

【具体的には： \_\_\_\_\_】

④その他（ \_\_\_\_\_ ）

引き続き→問11へすすんで下さい。

問11. 今日、生殖医学は急速に発達し、体外受精などの先端的な不妊治療とともに妊娠中の胎児の染色体や遺伝子を調べる出生前診断も行なわれるようになっていきます。そこで最近話題となった以下の問題に対するあなたのお考えをお聞かせ下さい。

(1)染色体や遺伝子の異常に関する出生前診断について

①受精卵の一部を用いて行なうことは、（賛成・反対）。

【理由： \_\_\_\_\_】

②子宮内から胎盤の構成成分である絨毛細胞の一部を取り出して用いて行なうことは、（賛成・反対）。

【理由： \_\_\_\_\_】

③羊水の細胞を用いて行なうことは、（賛成・反対）。

【理由： \_\_\_\_\_】

④すべての出生前診断には、（賛成・反対）。

【理由： \_\_\_\_\_】

(2)出生前診断の倫理性について、あなたのお考えはどれですか。

①重い遺伝病についてのみ行なうことができる。（賛成・反対）

【理由： \_\_\_\_\_】

②患者の希望であれば、あらゆる出生前診断は認められる。（賛成・反対）

【理由： \_\_\_\_\_】

③出生前診断の信頼性は100%とは言えないので、万が一の誤診のことも考える。従って現時点では、（賛成・反対）。

【理由： \_\_\_\_\_】

④その他のお考え [ \_\_\_\_\_ ]

(3)多胎妊娠に対するいわゆる”減数手術（健全な胎児を出産させるために、妊娠初期に子宮内の複数の胎児のうち一部を死亡させる）”について

①賛成

【理由：

】

②反対

【理由：

】

(4)不妊症治療としての代理妊娠・出産（受精卵を他の女性の子宮に移植する）について

①賛成

【理由：

】

②反対

【理由：

】

ご協力ならびに貴重なご意見、大変有難うございました。





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



[目的]近年、人工妊娠中絶(以下、中絶と略す)の件数は受胎調節・家族計画の普及によって減少してきているが、思春期年齢や 40 歳代の中絶件数は逆に増加している。また最近では体外受精・胚移植などの先端的な不妊症治療や種々の出生前診断が実施され、妊娠や中絶をめぐる社会的環境に変化が認められる。今回中絶手術を受けた患者および婦人科の一般受診患者に、中絶および今日の生殖医学(出生前診断を含む)に関するアンケート調査を行ない、今後の予防医学ならびに婦人衛生向上の資料とすることにした。